

らしっく

自分らしく、粋なくらし

まちづくり・生涯学習情報誌

2006.9
秋蒔号
Vol.15



らしっくは、自分らしく、
粋なくらしを目指す人たちを
応援する情報誌です。

市民活do P.4

- ・ NPO 子どもの未来と平和を考える会
- ・ 大人のかくれ家倶楽部

プラザ通信 P.5

らしっく情報の森 P.9

ひろしま八区
イベントガイド P.11

P.1

特集／ビビッとしっくに

- ・ 興動館プロジェクト HUE Cafe 「Time」
- ・ 子ども達を守ろうプロジェクト
- ・ ショッピングモールシスターズ

今号から
新しく生まれ変わった
『らしっく』です。

タイトルの「秋蒔号」には、
今秋に蒔いた「市民交流」の種が
寒さや風雨に耐えながら、
やがて新芽から大樹へと成長して
欲しいという願いが込めら
れています。



仲元校長と西園さん（上）
子ども110番の家の見回りが終わ
ったら、児童館へ。子どもたちも
この日を楽しみにして、ドッジボ
ールやオセロなどをして一緒に遊
びます（左）

フットワークの軽い大学生が、地域の活動を応援する

子ども達を守ろうプロジェクト

大学生にできることを探す
興動館プロジェクトの一つである「子ども達を守るプロジェクト」が誕生したのは、昨年の11月。発端は、近年増え続ける子どもが犠牲となる犯罪でした。地域の子どもを守るために、大学生にできることはないだろうかという思いが、プロジェクト立ち上げの始まりだったそうです。チーム名は「Pocket. Protect Our Children Keep Eager the Team. の略で、「子どもたちを守り、熱心なチームを保とう」という思いで名付けられました。

まず初めに行ったのが、子どもと「いい関係」をつくることでした。子どもと仲良くなるには、一緒に遊ぶのが一番です。そこで山本小学校内にある児童館で実施された、クリスマス会にお手伝いとして参加しました。何度か児童館のイベントに参加するうちに名前を覚えてもらい、子どもたちの方から「一緒に遊ぼう!」と誘われ

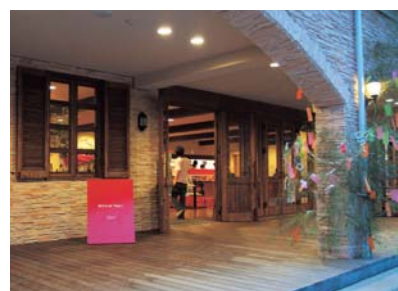
るようになったそうです。
PTA活動のお手伝い
山本小学校ではPTA活動として、「子ども110番の家の見回り」を行っています。通学路にある子ども110番の家を知ってもらうことが目的で、1〜3年生の児童が対象です。下校時に子ども110番の家を回り、家の人に挨拶をするのですが、児童数が多いためPTA役員と保護者のボランティアだけでは手が足りません。そこで「子ども達を守るプロジェクト」に、サポートの依頼が来しました。「地元の大学がこのような活動をしてくれることを、誇りに思います。保護者や教員だけでは手が回らない部分を助けてもらい、メンバーの方には非常に感謝しています。大学生が地域と関わることにより、地域の大人が大学生を育てているという一面もあるかもしれません」と仲元福恵校長。子どもたちからも、「一緒に遊ば

があればスタッフに声をかけてください」と提案していました。
みんなで楽しめるイベントを
7月7日には、「七夕まつり」が行われました。この日は、飲み物と花火をセットにした特別メニューを提供。駐車場を開放して、花火大会も行いました。近所に住む田中さんは、娘さんと2人で来店。「広い駐車場で花火ができる

のがいいですね」と、イベントを満喫していました。座席数40弱の店内は、ほぼ満席。親子連れや大学生、仕事帰りのサラリーマンなど、多くの人が楽しい時間を共有しました。
今年4月のオープン以来、着実に認知度を高めてきた「Time」。大学生と地域のコラボレーションが、新しい地域の活力となっているようです。



「子連れでもゆっくりできるカフェ」と、主婦層のリピーターが多い「Time」。七夕まつりには、浴衣姿の子どもたちも多く訪れました



広いテラスに置かれた笹飾りには、近所の小学生が書いた短冊もつけられました

HUE Cafe 「Time」

住所 安佐南区祇園5-1-27
電話 082-832-2161
営業時間 14:00 ~ 22:00
(夏休みの営業は、土・日・月の10:00 ~ 16:00)
定休日 土・日・祝日
URL <http://koudoukan.hue.ac.jp/cafetime/>

興動館プロジェクト
広島経済大学では、企画力や行動力のある学生を育てる「興動館教育プログラム」を展開。学生が新しいプロジェクトをゼロから立ち上げ経験を積む、「興動館プロジェクト」を導入しています。その一つが、喫茶や軽食、アルコールまで幅広いメニューを取り揃えた、大学生だけで運営するCafe「Time」です。経営理念は、「カスタマーファースト」地域と共に「地域と学生の交流の場として、地域の人にくつろいでもらえる場所にするのが目標です。担当コーディネーターの中山統之さんは、「大学生と地域が交流する時間は、あるようでない。世の中の多様な価値観に触れることは、学生にも地域の人にもメリットがあるのでは」と語ります。

ロコミから生まれた
コラボレーション
広い店内とテラスを活用した、地域住民とのコラボレーション活動も生まれました。近くに住み、カフェの常連でもある小嶋有紀さんは、7月4日、「Time」の店内とテラスを借りて雑貨マーケットを開きました。テラスで自分たちが作った雑貨やパンなどを販売し、店内で飲食ができるようにしました。「広いテラスがいいですね。子どもがいても安心してくつろげる場所だと思います」と小嶋さん。「Time」のチームリーダー杉山貴之さん（メディアビジネス学科2年生）も、「店内のスペースを使えば、地域の人々が作った雑貨などが販売できます。地域の人の活動をPRする場としても活用できそうです。良いアイデア



地域と学生と一緒に何かできる場所をめざして頑張る、「Time」運営メンバー（右）
人気メニューの「カフェオレ」と「ベーコンサンド」。仕入れや商品開発も学生が行います。七夕まつりの日には、「飲み物+100円」でラッピングした花火を付けて販売しました（下）



興動館プロジェクトHUE Cafe「Time」

地域と学生の交流が、コラボレーションを生む



ビビツと
しつくと

ビビツとアンテナを張り巡らせている人は、いつもVividにイキイキと生きています。そんな方々のChic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。
さあ、あなたもビビツと、しつくと暮らしてみませんか?

自分の住んでいる地域を、もっと「ステキ」にしたい。そんな思いは世代を超え、さまざまな活動を生み出します。現在広島市内では、大学生が地域の中で積極的に活動を進めています。若者らしいアイデアと柔軟な発想で地域づくりに取り組んでいる、大学生の活躍を紹介します。



若者のアイデアで 商店街を元気にする

ショッピングモールシスターズ

授業から発展した まちづくり活動

平成15年（2003年）、広島修道大学では商学部の子生を対象に、企画力のある人間を育てるための「起業家養成講座」を開講しました。この授業を受けた学生が、「自分たちも何か実践してみたい」と考え商店街に働きかけたところ、本通商店街が応えてくれました。商店街側は、経営者の年齢層が年々上がっており、若者のアイデアを商店街に反映させたいという思いがありました。学生側には自分たちの発想を生かして商店街のお手伝いをしたという考えがあったため、協働活動が実現。「ショッピングモールシスターズ」が誕生しました。現在は本通商店街から委託金を受け、活動を行っています。

清掃活動の中から生まれる コミュニケーション

ショッピングモールシスターズは、毎週土曜日に活動しています。午前中は清掃活動と、タイルにつ

いたガムはがしがメイン。電車通りを挟んだ約600mのアーケード街を、4人で清掃していきます。ガムはがしは座つての作業になるので、商店街の中では注目的です。黙って通り過ぎる人、立ち止まって眺める人など、反応はさまざま。中には「お姉ちゃんたち、何してるの?」と話しかける子どももいます。立ち止まってくれた人には挨拶をするなど、コミュニケーションを図るように心がけているそうです。

午後からは、「バルーンアート」と「あめ配り」で、買い物客とのコミュニケーションを図ります。代表の宮本さゆりさん（2年生）は、「泣いている子どもにも『あめ食べる?』と聞くと、選んでいる間に泣き止んで、最後には笑顔になってくれるんです。その瞬間が最高にうれしいです」と話してくれました。その他にも、大きな荷物を持っている高齢者に声をかけるなど、会話の中から生まれるコミュニケーションを大事にしているそうです。

本通タイムスと 毎月のイベント

今年の7月、長年本通商店街が発行していた「本通タイムス」の発行業務が、ショッピングモールシスターズに委託されました。学生の目から見た本通の新聞を作ってほしいという依頼を受け、取材先決定からデザインまで、すべてをメンバーが担当しました。「最近カラー広告が目立つけれど、モノクロのチラシも味があつていいね」と好評でした。取材がお店のことを深く知るきっかけとなり、勉強にもなったそうです。

また毎月1回、自分たちで企画したイベントも実施します。「毎月イベントがある」「本通商店街は楽しい場所」というイメージを定着させ、集客につなげていくことが目的です。ショッピングモールシスターズの目印は、赤いキャップ帽と、ギンガムチェックのユニフォーム。本通商店街を歩いていて彼女たちに出会ったら、ぜひ一声かけてください。

7月1日にリニューアルされた。本通タイムス。「若者らしいデザインと文章が新鮮」と商店街からも好評です（右）



バルーンアートは珍しいため、そばに来て「ちょうだい!」と声をかけてくる子ども多いとか。「あめ食べる?」「風船いる?」の一言から、さまざまなコミュニケーションが生まれます



現在のメンバーは10人弱。他大学の学生も加わり、交流の輪が広がっています

被爆2世による、草の根平和活動

NPO 子どもの未来と平和を考える会

今年の夏にNPOの認定を受けた「子どもの未来と平和を考える会」。事務局長の林俊雄さんが活動を始めたきっかけは、紙製の灯ろうを知ったことでした。今までの灯ろうと違い簡単に組み立てられること、自由に絵が描けることに興味を持った林さん。「これを使って地域活動をしたらおもしろいかも」と、平成17年（2005年）4月に、仲間5人で組織をつくり活動をスタートさせました。

寺分室」の協力もあつて、ハドソン川での灯ろう流しに参加し、その後セントポールズ教会に灯ろうを寄贈しました。今後は小中学校を巡って灯ろうづくりを指導するほか、広島市の平和記念式典とニューヨークの追悼式とを交流させるイベントを計画中です。「子どもたちに灯ろう流しの美しさや意味を感じてもらい、平和について考えてもらえればうれしいですね」と今後の意気込みを語ってくれました。

今話題の市民活動を
紹介するこのコーナー。
その活動の原動力は
地域を愛する気持ちと
人々つながる喜びです。
さあ、あなたも市民活動を
始めてみませんか?

shimin
katsu do市民活
do

「ドキドキ・ワクワク」で地域交流

大人のかくれ家倶楽部

安佐北区と東区にまたがる松笠山に、その基地を構える「大人のかくれ家倶楽部」。月に1度倶楽部のメンバーが集まり、下刈りやベンチづくりなどで汗を流し、夢のかくれ家づくりを進めます。参加しているメンバーは29人。その中心は50〜60代の男女です。「子どもの時に感じたドキドキ・ワクワクする気持ちを味わえる」「自然の中で人が集まって、お互いに素直な気持ちで付き合えるのが本当に楽しい」と好評です。

倶楽部ができたのは、平成16年（2004年）の口田公民館によるまちづくり活動支援事業「わがまち見直し隊」がきっかけでした。3力年にわたるこの事業は、市民活動の担い手を公民館で育てていくというもの。公募により8人の市民が参加し、月に1度のワークショップで地域の課題を話し合いました。その結果、豊かな自然を活用し、触れ合える場所を作ろうと実行されたプロジェクトが「大人のかくれ家倶楽部」でした。

昨年第一回目を実施したところ、多くの人を集める人気が、その後継続して行われることになったのです。「わがまち見直し隊」に参加し、倶楽部の代表を務める木戸敏明さんは「まずは地域住民を私たちの活動に巻き込んでいくことが大切と考え、大人が楽しめる居場所づくりから始めたんです。今後は市民活動の拠点となれば」と話します。

今はメンバーの手によって来年中のかくれ家完成をめざしながら、倶楽部の活動が進められています。



四季に応じた遊びをすることも活動の一つ。この日は鮎を味わいました

第1回目は広島をはじめニューヨークなどで灯ろうを使った平和活動を行っている「NPO 子どもの未来と平和を考える会」（佐伯区）と山の整備や自然の中での遊びを通して、地域住民の交流を図る「大人のかくれ家倶楽部」（安佐北区）を紹介します。



8月6日の灯ろう流し。今年9月にはニューヨークでも広島の灯ろうを灯す予定